

# 令和 6 年度こども園評価書

園番号 19 園名 高松こども園

## I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている, C : あまりできていない, D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
キラキラ輝く子	「あ！」 「もっとやりたい」 ～わくわくが つながる～	子どもの“今わくわくしていること”“やりたいこと”を捉える	子どものつぶやきや表情の変化などに気づき、一人一人の“やりたい”思いや夢中になっていることに注目することが出来ている。また職員間で連携をとり、共通認識のもと子どもが楽しんでいることを捉えることが出来た	A	A	・温かい雰囲気の中、保育者の子どもへの声のかけ方や、まなざしが柔らかい。子どもたちが元気にのびのびと遊んでいる姿がある。保護者アンケートの結果からも、子どもと保護者が安心して園に通っていることがわかった。 ・1歳児棟横のスペースを工夫し、子どもたちがわくわくして遊べる環境が強化されている	・保育者自身の保育の振り返りを習慣づけ、保育者間で子どもの遊びを語り合う時間を確保する。子どもの心が動く理由や、その先にどう遊びが展開されたのか、子どもの思いを探り共有する ・各クラスの遊びの様子を共有したり、保育室を見合ったりする機会を作り、園庭だけでなく共有スペースや、各保育室についても定期的に検討し合う。引き続き小グループで環境改善の活動を行う ・年齢や発達を考慮したねらいや援助を考え、職員間で共通認識をもつ。子どもの気持ちを受け止めることを大切にし、自分の思いを十分に伝える信頼関係を作った上で、同学年だけでなく、他学年との関わりも意識し、乳児から幼児までのつながりの中で、思いやる心を育てられるようにしていく
		子どものわくわくがつながる環境を考え合い、作り出す	環境について定期的に全体で話し合う時間を設けることで、子ども達が楽しんでいることを共有しながら環境の改善のアイデアを出し合っていた。職員の小グループが連携し合いながらわくわくがつながる園庭づくりを実施することができた	A	A		
		子どもが周りにいる人に興味をもち、次にどうしたらよいか気づけるようにする	保育者が子ども達にとって、一番の理解者となるよう一人一人の思いを受け止め、関わることで自分の思いを安心して出す姿が見られている。また相手の表情や感情を子ども達に問いかけていくことで、少しずつ相手の思いに気づいたり、考えたりする姿につながっている	A	A		

## II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	子どもの実態や遊びの様子を共有し、共通理解のもと環境づくりを行う	乳児幼児会議や小グループでの活動の中で、子どもの様子を伝え合ったり、保育の悩みを相談したりすることで共通認識をもつことができた。わくわくタイムで自分から意見を伝えられるようになり、さまざまな提案や意見を取り入れて環境の再構成を行うことができた	B	A	・日々の生活の中で、子どもが少しづつ成長しているのを感じる。年下の子への接し方も以前と変わり、優しくなった。保育者がこどもの「やりたい」に寄り添い接してくれていることが、運動会や生活発表会からも感じる事ができた	保育室を見合うツアーを計画的に実施し、保育環境について職員同士で意見を交わす機会を増やしていく。園庭環境図に写真や文章を加えて可視化したり、異年齢の関わりや発達の連続性を共有したりしながら、保育室と園庭のつながりを意識して環境の再構成を行っていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	長時間保育の中で、保育者に思いを受けとめてもらいながら、安心して過ごす	担任と運番担当職員と子どもの表れについて情報共有を行ったが、支援が必要な子への配慮について、対応に苦慮することがあった。環境の見直しを定期的実施し、玩具の入れ替えや子どもの興味関心にあった遊びを取り入れ、各学年で安心して過ごせる保育の工夫を考え合った	B	B		乳児幼児会議等で、支援が必要な子や保護者の関わり、保育環境について定期的に振り返り、職員間での共通理解のもと、速やかに見直しをしていく。さまざまな伝達事項が十分に共有できるように、ファイルへの記入と口頭伝達を丁寧実施する
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもが“やってみよう”と興味をもって遊び、心がわくわくする保育環境や保育者の関わりを工夫し合う	少人数グループでの話し合いの機会を増やしたり、パート職員も参加したりすることにより、環境改善に向けた職員一人一人の意識が高まった。活発に意見交換したりアイデアを出し合ったりすることで、職員もワクワクしながら園庭環境の改善に取り組むことができた	A	A	・朝、忙しい中玄関先で保育者が受け入れてくれている。保護者を思い、協力しようとする姿勢がとてもありがたい	全職員が意見を出したり、環境改善に参加したりしていけるように、小グループ作りや情報共有の方法の工夫をして「チーム高松」の力を高めていきたい。また園庭環境だけでなく、室内環境について主体的に話し合い、改善につなげていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	月一回の訓練やヒヤリハットの共有を通して、保育者一人一人が自身の役割を意識して子どもの指導を行う	毎月会議でヒヤリハットの分析を共有し、全職員で共通意識をもって再発防止に努めた。減災の知識を取り入れ、各種の訓練を見直し、振り返り、改善につなげた。また、救命救急講習会を企画し、実践することで、命を守るスキルと危機管理意識を高めることができた	A	A	・駐車場が込み合うことや、働き方改革のせいなのか、担任に相談しづらい雰囲気がある	各種の訓練での職員の気づきや子どもの姿を振り返り、次の訓練の手立ての話し合いや、ヒヤリハットの分析の共有を次年度も継続して行う。救命救急講習会も回数を増やし、全職員のスキル習得を図る。また減災についての知識を保護者と共有できるように発信に力を入れていく
		子どもが保育者や給食職員と一緒に食育活動や栽培を行い、食への関心をもつ	自分で育てた野菜の生長を保育者と一緒に楽しみ、収穫後は製作や給食職員と連携してクッキングを行った。また、栄養士が中心となり、毎月食育活動を実施したり、食育コーナーで栄養や食生活に関する情報を発信したことで、子どもや保護者の食への興味関心の向上につながった	A	A	・子ども達の様子ドキュメンテーション、感染症の発生状況、連絡事項等を共通で発信してくれるようになって、とても助かっている。家事や育児の合間に見られる。今後も続けてほしい	家庭ではできない経験を子ども達が楽しめるように、保育者と給食職員がより連携し、クッキングの機会を増やす。また、毎月の食育活動が幼児を対象としていたため、次年度は栄養士が中心となって乳児にも食育活動を行い、食への興味関心を高める
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	子どもが保育者や給食職員と一緒に食育活動や栽培を行い、食への関心をもつ	自分で育てた野菜の生長を保育者と一緒に楽しみ、収穫後は製作や給食職員と連携してクッキングを行った。また、栄養士が中心となり、毎月食育活動を実施したり、食育コーナーで栄養や食生活に関する情報を発信したことで、子どもや保護者の食への興味関心の向上につながった	A	A		
		子どもが保育者や給食職員と一緒に食育活動や栽培を行い、食への関心をもつ	自分で育てた野菜の生長を保育者と一緒に楽しみ、収穫後は製作や給食職員と連携してクッキングを行った。また、栄養士が中心となり、毎月食育活動を実施したり、食育コーナーで栄養や食生活に関する情報を発信したことで、子どもや保護者の食への興味関心の向上につながった	A	A		
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	ピーターパン会議やケース会議で支援を必要とする子どもの関わりを検討し、全職員で共有する	ピーターパンの会や会議では、支援児への関わりやサポートプラン作成の方法を伝え合うことができたが、全職員でサポートの方法等について共有することは難しかった。高松ネットワークサロンでは、保護者と職員が学び合い、就学についての情報を得ることができた	B	B		サポート方法について全職員で共有できるように、職員会議でピーターパン会議や各種研修の報告を行い、一人一人の特性や関わり方について情報共有を図っていく
		担当園務分掌を各自で意識し、協力しながら進める。進捗状況を会議で報告し、共有を図っていく	各自職員が分掌の役割を主体的に行うことができた。他の分掌の業務の手助けを自分から考えて行動することは難しかったが、会議等で進捗状況などを発信することで昨年度より協力して取り組むことができた	A	A		次年度も担当園務分掌が定期的に進捗状況を発信し、園全体で情報共有を図る。また業務について職員から助言や意見を発信し合う機会を設けて、協力体制を整えていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	子どもが保育者や給食職員と一緒に食育活動や栽培を行い、食への関心をもつ	自分で育てた野菜の生長を保育者と一緒に楽しみ、収穫後は製作や給食職員と連携してクッキングを行った。また、栄養士が中心となり、毎月食育活動を実施したり、食育コーナーで栄養や食生活に関する情報を発信したことで、子どもや保護者の食への興味関心の向上につながった	A	A		
		子どもが保育者や給食職員と一緒に食育活動や栽培を行い、食への関心をもつ	自分で育てた野菜の生長を保育者と一緒に楽しみ、収穫後は製作や給食職員と連携してクッキングを行った。また、栄養士が中心となり、毎月食育活動を実施したり、食育コーナーで栄養や食生活に関する情報を発信したことで、子どもや保護者の食への興味関心の向上につながった	A	A		
6 研修	(1)研修体制の充実	駿河区区拠点園として、全体研修会での発表や公開保育や行い、遊び改善構想に基づいた協議を実施し、園全体の保育力の向上を図る	研修部中心に作成した探究の図を活用し、子どもの探究する姿を見える化することで、公開保育時の職員の話し合いが深まり、子どもの学びの過程がわかりやすくなった。また、職員間の意見交換が活発になり、様々な視点からの保育の手立てを取り入れ、保育改善への意識の高まりも見られた	A	A		今年度の取り組みを継続し、iPadや探究の図を保育に取り入れた研修を実施する。また若手職員が主体的に意見を伝えたり、研修の司会進行を行ったりする機会を設けて、スキルアップにつなげたい。園庭環境については、振り返りを学期ごとに行い、見直しをもって再構成を継続して行う体制を整える
		「あ！」と子どもの心が動く環境や関わりを探り、「もっとやりたい」と遊びこめる環境や教材を用意する	子どもの興味関心に加え、探究の姿を捉えることを意識し、クラスや学年ごとでの話し合いで環境作りについて考えながら、必要な教材や空間作りを実施することができた。しかし、子どものその時の興味に合わせた園庭環境の再構成に時間がかかってしまうこともあった	A	A	・登呂公園での稲作体験、近隣の公園での遊びの様子発信(お散歩マップ)等、保護者に地域の良さをたくさん知ってほしい。楽しい実体験を積み重ね、近隣地域への興味関心を育てる取り組みを今後も蓄積してほしい	現在も行っている週2回の園庭会議のうち1回を教材研究や環境整備に関する情報共有の場にした。1年を通した計画をもとに、ティンカーベルやわくわくリーダーズなどの組織で活動したことを、職員会議で報告したりして、定期的に話し合う場を設け、見直しをもって環境作りを行う
7 教育・保育環境 整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもが保育者や給食職員と一緒に食育活動や栽培を行い、食への関心をもつ	自分で育てた野菜の生長を保育者と一緒に楽しみ、収穫後は製作や給食職員と連携してクッキングを行った。また、栄養士が中心となり、毎月食育活動を実施したり、食育コーナーで栄養や食生活に関する情報を発信したことで、子どもや保護者の食への興味関心の向上につながった	A	A		
		子どもが保育者や給食職員と一緒に食育活動や栽培を行い、食への関心をもつ	自分で育てた野菜の生長を保育者と一緒に楽しみ、収穫後は製作や給食職員と連携してクッキングを行った。また、栄養士が中心となり、毎月食育活動を実施したり、食育コーナーで栄養や食生活に関する情報を発信したことで、子どもや保護者の食への興味関心の向上につながった	A	A		
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	子どもが保育者や給食職員と一緒に食育活動や栽培を行い、食への関心をもつ	自分で育てた野菜の生長を保育者と一緒に楽しみ、収穫後は製作や給食職員と連携してクッキングを行った。また、栄養士が中心となり、毎月食育活動を実施したり、食育コーナーで栄養や食生活に関する情報を発信したことで、子どもや保護者の食への興味関心の向上につながった	A	A		
		子どもが保育者や給食職員と一緒に食育活動や栽培を行い、食への関心をもつ	自分で育てた野菜の生長を保育者と一緒に楽しみ、収穫後は製作や給食職員と連携してクッキングを行った。また、栄養士が中心となり、毎月食育活動を実施したり、食育コーナーで栄養や食生活に関する情報を発信したことで、子どもや保護者の食への興味関心の向上につながった	A	A	・幼小の連携については、園生活での経験の継続を考えている。園で聞いていた馴染みのある音楽を流したり、保育者が絵本を読み聞かせたり、円滑な連携に向けて協力し合っしていきたい	長時間保育を利用している園児が多いが、保護者とコミュニケーションを取ることが大切になら、保護者の思いに寄り添い悩みを聞いたり、子どもの様子を丁寧に伝えていったりしていく。共通のドキュメンテーションやデイリーボードを活用し、保護者に安心や“わくわく”が伝わる内容について学び合っていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	子どもが保育者や給食職員と一緒に食育活動や栽培を行い、食への関心をもつ	自分で育てた野菜の生長を保育者と一緒に楽しみ、収穫後は製作や給食職員と連携してクッキングを行った。また、栄養士が中心となり、毎月食育活動を実施したり、食育コーナーで栄養や食生活に関する情報を発信したことで、子どもや保護者の食への興味関心の向上につながった	A	A		
		子どもが保育者や給食職員と一緒に食育活動や栽培を行い、食への関心をもつ	自分で育てた野菜の生長を保育者と一緒に楽しみ、収穫後は製作や給食職員と連携してクッキングを行った。また、栄養士が中心となり、毎月食育活動を実施したり、食育コーナーで栄養や食生活に関する情報を発信したことで、子どもや保護者の食への興味関心の向上につながった	A	A		
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	子どもが保育者や給食職員と一緒に食育活動や栽培を行い、食への関心をもつ	自分で育てた野菜の生長を保育者と一緒に楽しみ、収穫後は製作や給食職員と連携してクッキングを行った。また、栄養士が中心となり、毎月食育活動を実施したり、食育コーナーで栄養や食生活に関する情報を発信したことで、子どもや保護者の食への興味関心の向上につながった	B	B		
		子どもが保育者や給食職員と一緒に食育活動や栽培を行い、食への関心をもつ	自分で育てた野菜の生長を保育者と一緒に楽しみ、収穫後は製作や給食職員と連携してクッキングを行った。また、栄養士が中心となり、毎月食育活動を実施したり、食育コーナーで栄養や食生活に関する情報を発信したことで、子どもや保護者の食への興味関心の向上につながった	B	B		稲作体験は次年度も継続していく。“お散歩マップ”に、園外保育で楽しかったエピソードや子どものつぶやきを書き込んだり、クラス版を作成し、クラス前に掲示し保護者に発信する。また職員や保護者から情報を収集し、近隣地域の良い所や、いつ、どこで、どのような自然物が見つけられるのかな等を共有し、季節に合った自然との豊かな関わりにつなげる